

第2章 まちづくりの方針

1. まちづくりの目標

八幡市都市計画マスタープランでは、上位計画である「第5次八幡市総合計画」に掲げる将来都市像及びまちづくりの基本目標の考え方を踏襲するとともに、前章で整理をした「まちづくりの基本的課題」を踏まえ、本市の都市計画分野におけるまちづくりの目標を以下のように定めます。

第5次八幡市総合計画

<将来都市像>

みんなで創って好きになる 健やかで心豊かに暮らせるまち
～住んでよし、訪れてよし Smart Wellness City, Smart Welcoming City Yawata～

<まちづくりの基本目標>

- ・ともに支え合う「共生のまち やわた」
- ・子どもが輝く「未来のまち やわた」
- ・誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまち やわた」
- ・自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」
- ・しなやかに発展する「活力のまち やわた」
- ・持続可能な「安心・安全のまち やわた」

<まちづくりに関する基本的な課題>

- (1) 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の実現に向けた各種取組の検討
- ① 地域の核となる拠点整備・機能の充実
 - ② 定住促進や住替促進に向けた対策
 - ③ 公共交通のさらなる利便性向上
- (2) 産業機能の充実などに合わせた地域活性化の検討
- (3) 持続可能な都市経営に向けた公共施設の適正な維持管理の検討
- (4) 地域災害の発生を見据えた防災・減災対策の検討
- (5) 地域主体のまちづくりに向けた取組の検討

<まちづくりの目標>

- 本市の特性を踏まえた「コンパクトシティ」の実現に向けたまちづくり
- 産業振興や多様な地域資源を活かした活力あるまちづくり
- 公共施設の再編などによる持続可能なまちづくり
- 災害に強く安心・安全に暮らせるまちづくり
- 市民などとの連携による地域主体のまちづくり

本市の特性を踏まえた「コンパクトシティ」の実現に向けたまちづくり

- ・鉄道駅周辺や都市基盤整備が行われている新名神高速道路八幡京田辺 JCT・IC 周辺などの地域の核となる拠点では、周辺整備と合わせた都市機能の誘導による機能強化を図り、都市としての賑わいの向上をめざします。
- ・現状で比較的まとまって分布している居住地については、人口減少社会に対応した定住促進対策などの取組を検討するとともに、さらなる居住地の集約化に向けた住替促進対策などの取組や、多世代が交流できる仕組づくりなどを進め、利便性が高く住みよい市街地の形成をめざします。
- ・拠点間や居住地内を結ぶ交通手段である公共交通においてはだれもが自由に移動しやすい交通環境の形成をめざします。

産業振興や多様な地域資源を活かした活力あるまちづくり

- ・新名神高速道路の整備などに伴う都市基盤整備を踏まえ、さらなる産業機能の集積を図り、税源涵養に資するよう活力ある産業基盤の形成をめざします。
- ・市街化調整区域に広がる農地についても、豊かな田園環境の維持を図るとともに、都市近郊農地という利点を活かし、活力ある農業基盤の形成をめざします。
- ・市域に点在する豊富な歴史文化資源や自然環境、景観といった多様な地域資源については、それぞれ適切な保全に関する取組と合わせて、それらを活かした地域活性化の取組を検討し、活力あるまちづくりをめざします。

公共施設の再編などによる持続可能なまちづくり

- ・道路や橋りょうなどの社会基盤の長寿命化対策などに加え、公共施設の有効活用や集約化、さらには居住地の集約化に向けた住替促進対策などの取組を行い、持続可能なまちづくりをめざします。

災害に強く安心・安全に暮らせるまちづくり

- ・頻発する自然災害などの脅威に備えるため、災害時の防災拠点としての機能を維持できる庁舎の建替や公共施設・インフラ施設の耐震化、雨水排水施設の整備や充実、避難路の確保など、災害に強い都市基盤の形成をめざします。
- ・一方で、ハード対策だけでは限界があることからハードとソフト両面による取組や、減災の考え方を取り入れ、だれもが安心して安全に暮らせるまちづくりをめざします。

市民などとの連携による地域主体のまちづくり

- ・魅力ある地域社会の実現に向けて、市民・事業者・NPO などの多様な主体がまちづくりに参画する仕組を検討するとともに、それぞれの主体的な活動に関して支援を行うなど、市民などとの連携による地域主体のまちづくりをめざします。

2. 人口フレーム

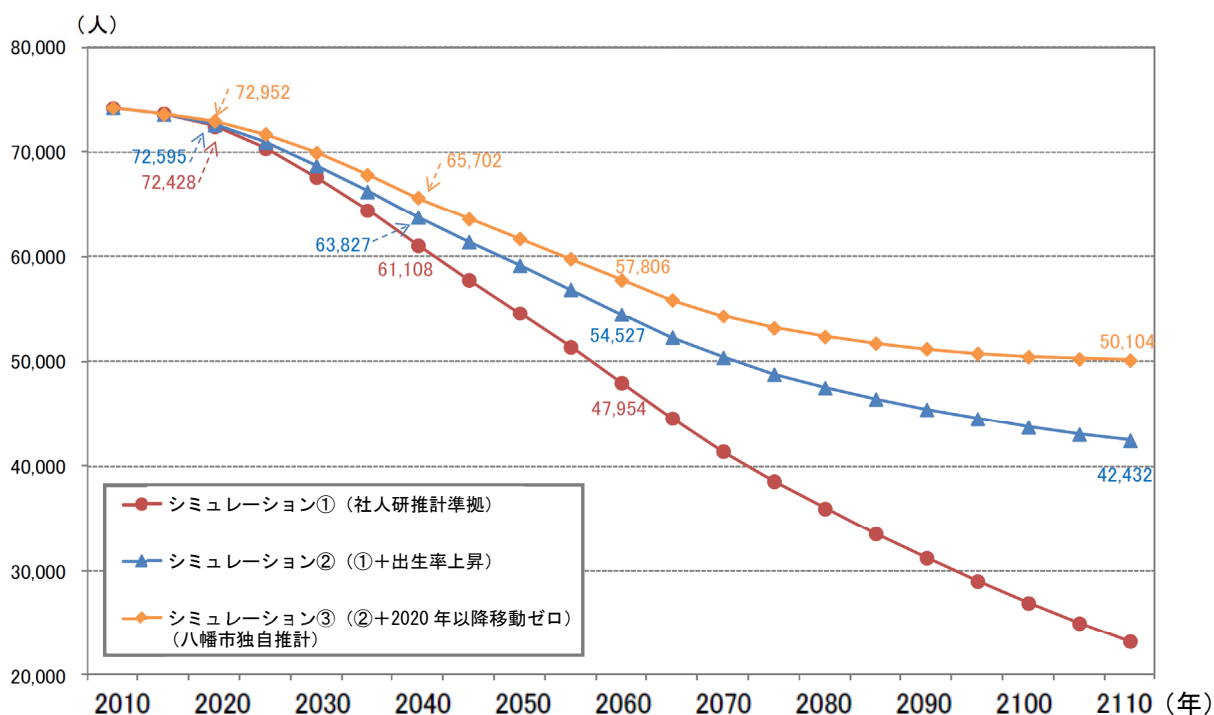
本市の人口フレームは、上位計画である「八幡市人口ビジョン」の目指すべき将来人口像を踏襲し、2040（平成52）年の人口目標を約65,000人以上に設定します。

社人研の人口の将来推計結果によると、本市の人口は2040（平成52）年に約61,000人まで減少すると予想されていますが、「八幡市人口ビジョン」では出生率向上や転入出者対策、持続可能な社会の実現、交流人口の拡大といった視点から人口減少を抑制し、人口構造の安定をめざすこととしており、本計画においてもまちづくりの目標に掲げた各種施策の展開を図り、人口目標の達成をめざします。

【目指すべき将来人口像】

2040（平成52）年の人口目標：65,000人以上

■ 八幡市の将来推計人口



(資料) 社人研「日本の地域別将来推計人口」

(※1) 社人研の推計は2040年（平成52年）までとなっておりそれより先の年次推計は、諸率（生存率、純移動率、合計特殊出生率及び子ども女性比率を用いた換算率等）をそのまま用いて推計した。

(※2) 出生率を、2030年（平成42年）に1.8程度、2040年（平成52年）に2.07（人口置換水準）程度に回復

(※3) 2020年（平成32年）以降、すべての世代の社会増減がゼロ（転入と転出が均衡）となる想定

3. 将来都市構造

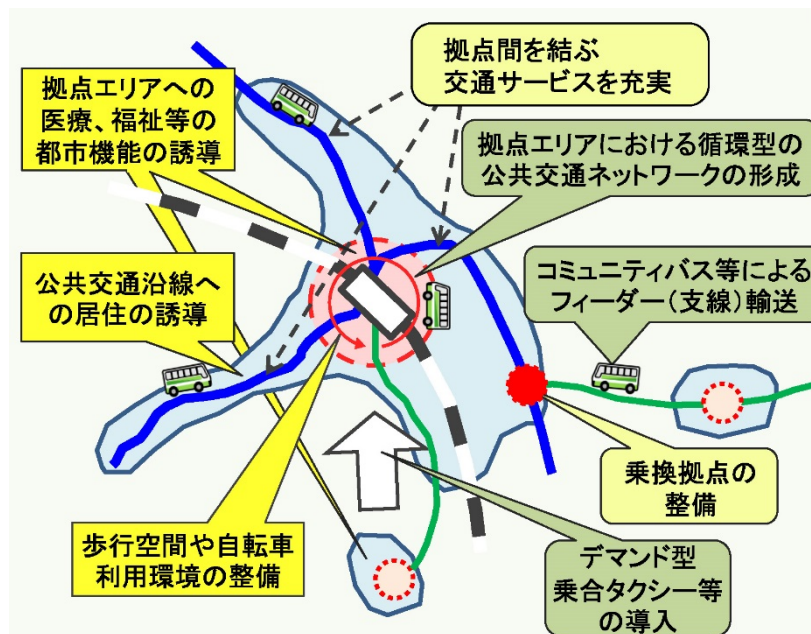
本計画では、「本市の特性を踏まえたコンパクトシティ」の実現をまちづくりの目標として掲げており、より効率的な都市構造である「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考え方を前提としながら、本市の特性に合わせた将来都市構造を設定し、その実現をめざします。

また、本市の特性に合わせた「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を実現するため、「立地適正化計画」の策定を検討します。

■ 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」とは

人口減少や少子高齢化が進展する昨今において、市街地が薄く広がったまま人口減少が進むと、医療や商業などの生活サービス施設や公共交通を維持することが困難となり、歩いてまたは公共交通で日常生活を営むことが困難となる恐れがあります。

「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」は、地域の拠点間を結ぶ公共交通を軸として捉え、拠点の賑わいと公共交通ネットワークの充実などを図りつつ、公共交通の沿線などを中心に拡散した市街地を集約化することで、市街地の人口密度を保ち、居住地域の生活サービスやコミュニティの持続的な確保などをめざすものです。



出典：国土交通省

3-1. 拠点の位置付けと役割

【都市機能誘導拠点】

<八幡市駅周辺エリア>

広域的な交流拠点である八幡市駅周辺や男山周辺、三川合流周辺に市民の生活・交流の場である市役所周辺を加えたエリアを「八幡市駅周辺エリア」として位置付けます。

本エリアでは、京都市と大阪市との中間に位置する本市の北の玄関口として、まちづくりの中心にふさわしい都市機能の誘導・充実を図ります。

<橋本駅周辺エリア>

平成29年3月に供用を開始した市道橋本南山線（延伸部）や（都）橋本駅前線など都市基盤整備を進めている橋本駅周辺を「橋本駅周辺エリア」として位置付けます。

本エリアでは、本市の新たな広域交流の場として、必要な都市機能の誘導・充実を図ります。

<八幡京田辺 JCT・IC 周辺エリア>

平成29年4月に供用を開始した八幡京田辺 JCT・IC 周辺を「八幡京田辺 JCT・IC 周辺エリア」として位置付けます。

本エリアでは、広域交通の結節点という利便性を活かし、本市の南の玄関口としてふさわしい多様な都市機能の誘導・充実を図ります。

【広域交流拠点】

本市を代表する観光資源である男山周辺や三川合流周辺、流れ橋周辺、松花堂周辺を「広域交流拠点」としてそれぞれ位置付けます。

本拠点では、市民の憩いの場やレクリエーションの場として、また観光客ニーズに応じた交流拠点として、周辺環境の整備や魅力の向上を図ります。

【地域生活拠点】

一定の人口集積がみられる八幡地区や男山地区、橋本地区、欽明台地区を「地域生活拠点」としてそれぞれ位置付けます。

本拠点では、市民生活の暮らしの中心として、地域の魅力向上や生活利便性の向上を図ります。

【シビック交流拠点】

行政機能が集積する市役所周辺を「シビック交流拠点」として位置付けます。

本拠点では、行政サービスや市民文化の中心としての機能強化を図るとともに、庁舎建替に合わせた市域の防災拠点としての機能創出を図ります。

3-2. 軸の位置付けと役割

【南北連携軸】

本市の北の玄関口である八幡市駅周辺エリアと南の玄関口である八幡京田辺 JCT・IC 周辺エリア及び北陸新幹線の新駅が設置される JR 松井山手駅周辺とを結ぶ南北軸を「南北連携軸」として位置付けます。

本軸では、南北の拠点の連携を強化するとともに、乙訓・京都北部方面や京田辺市方面への連携を図ります。

【東西連携軸】

市内を通過し、枚方市の京阪樟葉駅と城陽市とをつなぐ東西軸を「東西連携軸」として位置付けます。

本軸では、東西地域間の連携強化や枚方市方面との連携を図るとともに、城陽市との連絡道路の整備促進を図ります。

【広域交流軸】

市内を通過する鉄道や高速道路、国道1号といった道路を「広域交流軸」として位置付けます。

本軸では、未整備区間などの整備を促進し、近隣市町に加えて京都や大阪、全国の各地域と本市との連携強化を図ります。

【地域生活軸】

市内を結び生活の中心となっている道路を「地域生活軸」として位置付けます。

本軸では、市民生活の身近な動線として、市域の拠点間の連携強化などを図ります。

【水辺うるおい軸】

市内を流れる河川のうち、三川合流から木津川の河川エリアと大谷川、防賀川を「水辺うるおい軸」として位置付けます。

本軸では、本市やその周辺にうるおいを与える軸として、親水空間の整備を図ります。

■ 将来都市構造図

